

くも膜下出血後に複視を認めた患者の運転支援

桔梗ヶ原病院

園原 和樹

【症例】高血圧、高脂血症を有する 40 歳、女性。202X 年 4 月、脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血のため他院に入院した。第 2 病日に手術施行後、第 30 病日に当院に転院した。転院時、複視・嘔気・注意障害を認めた。

【経過】左眼に外転運動障害を認め、複視の原因は左外転神経障害と診断した。画像検査では両側前頭葉に脳損傷を認めるが脳幹部に損傷はなく、前頭葉浮腫による外転神経圧迫が示唆された。直接的神経損傷がないことから浮腫改善による症状改善を予測し、(1) 軽微～消失時は両眼視、(2) 重度時は単眼（健側の右眼）で運転再開の方針とした。第 81 病日に複視は消失、第 90 病日よりドライビングシミュレーターによる運転リハビリテーションを開始し、第 147 病日に運転再開となった。

【結語】脳浮腫による一過性外転神経麻痺の症例を経験した。複視の病態解明と予後予測に基づく段階的な運転支援により、運転再開が可能となった。